

内子町部活動地域移行推進連絡協議会（第2回）会議録

内子町教育委員会

◆協議1 前回内容について方向性の確認

司 会：前回示した計画、つまり、今後2年間学校主体の部活動運営の後、地域の指導者を探して地域移行を進めて行くという方向について、各種団体で話していただいたと思うが、どういう意見があったか共有したい。

司 会：特に意見も無いようですので、ご承認いただけたということで次にいきたい。

◆協議2 町内中学校部活動におけるスポーツ・文化活動の種類

○ 合同チームの可能性について

事務局：中学校体育連盟の大会出場についての規約を説明する。（資料）

委 員：現在、小田中学校、大瀬中学校それぞれ9人揃っているが、今後のことも考えてなのか、合同チームで大会に出場している。9人揃っていても合同チームで大会に出場することは可能なのか。

委 員：新人戦については9人に満たないチームがあれば合同チームでの参加ができた。そして、新人戦で合同チームを組んでいたチームは、総体まで出ることが認められていたため、今回総体で出場できた。

委 員：大瀬中と小田中は9人以上いて合同チームで総体に出たが、県大会に行くと勝ち進んだ時に全国大会に出ることは出来るのか。

委 員：出来る。

事務局：種目ごとに、規則の違いは多少あるが、原則として、少ない人数で大会に出られないチームの救済措置のような形で合同チームが組むという理解でよい。

○ 合同部活動か拠点校部活動かの選択について

事務局：内子町の部活動の種類をどのようにしていくか検討いただきたい。今の部活動を基本に合同部活動を継続させていくか、町内の部活動をどれでも選択出来るような体制づくりを整えて拠点校部活動的な形をつくるか、いずれかの選択になるかと思う。今後、部活動をどのような枠組みですればよいか意見をいただきたい。

委 員：拠点校にした場合、内子町で一つのチームをつくるのか。

事務局：複数の拠点校も可能である。種目ごとに拠点校を町内で1校とすることも可能である。

委 員：合同部活動方式と拠点校部活動方式の大きな違いは何か。

事務局：合同部活動は今ある部活動が基本で、学校を越えた組み合わせによる編成となる。拠点校部活動は町内に存在する部活動についてどこかの学校が拠点校になることによって、生徒が様々な部活動を選択できるようになることが大きな違い。

委員：拠点校方式と合同部活動方式について、内子町で両方採用することはできないのか。

事務局：種目によって方式を変えることにより、両方採用することはできる。両方を採用した場合を想定すると、自校にない部活動を拠点校で選ぶ生徒が増えるかもしれない。それにより、もともと自校にある部活動の人数が少なくなり、自校でチームを組めなくなった場合に、合同部活動方式に切り替えて対応することになるのではないかと。

委員：各学校でバラバラになる可能性がある。拠点校を選ぶ生徒と残ってやる生徒とバラバラになる可能性があるため、それは避けたい。現在、人数が多くいるような部活動、例えば、野球などは町内で2チーム出来る程いるので、五十崎中学校と大瀬中学校に拠点校を作り、小田中学校は大瀬中学校に行き、内子中学校は五十崎中学校に行くという形なら今まで通りの形を、拠点校方式で維持できる。だが、実際希望を取って見たときに、人数が揃うかどうかは分からない。

○ 拠点校部活動方式の利点について

委員：少子化のスピードが凄いのので、2段階で進めるのか1段階で進めるのかということ議論したい。私としては、小田や大瀬の児童が今までなかった部活を選べるという選択肢が増えることを応援したい。美術部などが増えることは賛成。また、子どもは減ったが選択肢は増えたというのがいい。

委員：今まで自校にない部活をするため住所を移して、希望する部活動がある中学校に登校することで部活動を行っていた生徒も、拠点校方式ならその必要もなくなる。

○ 拠点校部活動方式の課題について

委員：拠点校にした時に、平日の部活動はどのようになるのか。

委員：事務局で話したのは、平日も一気に拠点校方式でするのがよいという方向性。ただ、移動の手段や方法の問題が難しい。

委員：スポーツ少年団も夜に活動している。昼間の活動は難しいかもしれない。絵の上手な高齢者が美術を教えることは可能かもしれないが。

委員：部活動をやらない選択肢も出てくる。部活動に参加する生徒が大きく減る可能性も想定しないとイケない。

○ 来年度から導入する方式について

司 会：拠点校部活動に来年位から移行していくべきとの話が多いが、合同部活動を2年位続けたほうが良いというご意見ありますか。拠点校になった場合、本人がしたくないという理由でしない生徒もでてくる。部活動にかかわる生徒が減ってくることも考えられる。

委 員：どうせするならじわじわなるより、一遍にやったほうがスッキリする。

委 員：内子小学校の3年生が40人、その子達が令和9年度に中学校へ入学する。その後も人数は減っていく。一遍にやって、問題点を改善しながら対応する方向性がよい。

委 員：全部拠点校にする場合、軟式野球なら2校合同だから2校拠点校にして、バレーなら大瀬、内子、五十崎の3校を拠点校でどこに行ってもいいのか。

司 会：大瀬に拠点校があって、大瀬の子が内子の拠点校に行くことは可能か。

事務局：拠点校方式については、中学校体育連盟から令和5年2月に新たな考え方が示され、新たな考え方で実践例が無い状況である。町内に2つの拠点校を作るのは、合理的な理由が必要で、ハードルが高くなる可能性がある。

司 会：拠点校を1校しか置けない場合、保護者の理解や納得が得られるのか。

委 員：野球と剣道とバレーは納得いかないと思う。拠点校は作るが、自分の学校は単独で出るとは可能。

委 員：小学生の子がいるが、内子と小田で合同チームを組んでいる、平日は内子、休日は小田で練習している。特に問題なくできている。

委 員：町内に1つだったら問題ないが、選択肢があると流れるので制約はいるのではないか。

委 員：生徒の希望を聞くのだから、4月当初に決めていても、2～3週間位体験入部するが、そこで希望を取ってからでないとスタート出来ないのではないだろうか。

委 員：拠点校に登録した子については、拠点校からでないと大会に出られない。学校からは出られない。

委 員：学校単独の部活を残した時に、その部活の地域移行はどうなるのか。

委 員：最終的には人数が減ってくるので、拠点校しか出来なくなる。最終的には地域移行するので、地域移行するために拠点校を作らないと出来ない。

司 会：ここまでの話は一遍に切り替えていくのが多かったと思うが、それによるしいか、ただ、数年は拠点校1校だとトラブルが起こる可能性がある。当面は2校設けないとダメではないか。

○ 拠点校部活動方式の工夫について

事務局：現段階では複数の拠点校は必要だが、その場合、どういう制限や選び方

ができるか細かいところの課題がある。

司 会：複数の拠点校を作る場合、内子独自のルールを設けることは可能か。小田と大瀬での選択、内子と五十崎の選択など。

事務局：合理的な理由があれば大丈夫と思われる。

司 会：競技によってルールを作ることも一つの方法ではないか。

委 員：愛媛県内では今年新居浜、松山、松前、大洲が先行でやるが、大洲は教職員、小学5～6年生にアンケートを取っている。内子も取ってみてはどうか。

委 員：アンケートは取っている。前回の資料にある。ただ難しい。PTAの役員さんにも集まっていたので、拠点校を決める時にはPTAの意見も反映させながらやらないといけない。

委 員：みんなある程度の知識（部活動がいろいろと選択できるようになるらしいなど）は持っているが、深くは分からない。

司 会：既存の部活動をベースに拠点校の案をつくるのはどうか。素案を作らないと検討しにくい。

事務局：拠点校を導入して、どうチーム編成するかという具体的な案を事務局で作りたいと思う。

委 員：小田の野球とバレーは町営バスで送迎してもらっている。段取り出来ないときは単独練習になる。行きはバスだが帰りは保護者の迎えもある。

司 会：そういうのをベースにやるのが、保護者も不満はないし、今の形をベースにしてその上に拠点校をのせていくみたいな形がよいのかもしれない。数年後には学校の統廃合も関わってくるので合わせて検討しないといけない。

○ 指導者について

事務局：部活動の種類で、11番（総合スポーツ部）と13番（美術部）、14番（総合文化・科学部）の新規の部活動を作ることはどうか。次回でよろしいか。これを含めて案を作るということでもいいか。

委 員：新規のものに教職員の指導者を置くのは難しい。

委 員：剣道の指導者は登録制でやっている。募集してみたらどうか。

事務局：それらも含めて案を作る。練習方法や練習場所も協議しないといけない。指導者についても、顧問や副顧問をどうするか等、報酬や指導者の位置づけも想定しないといけないと思っている。